

小学校版

がん教育プログラム

補助教材

本プログラムは健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者やその家族など、がんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図ることを目的としています。

本教材を活用するに当たっての留意事項

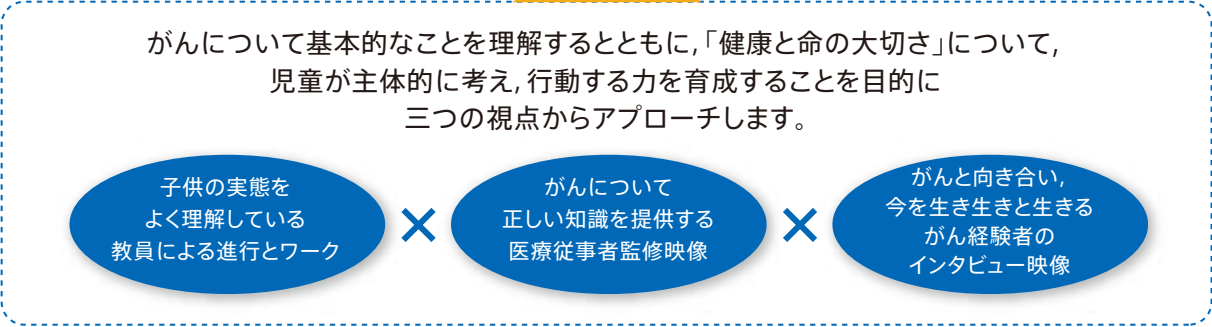
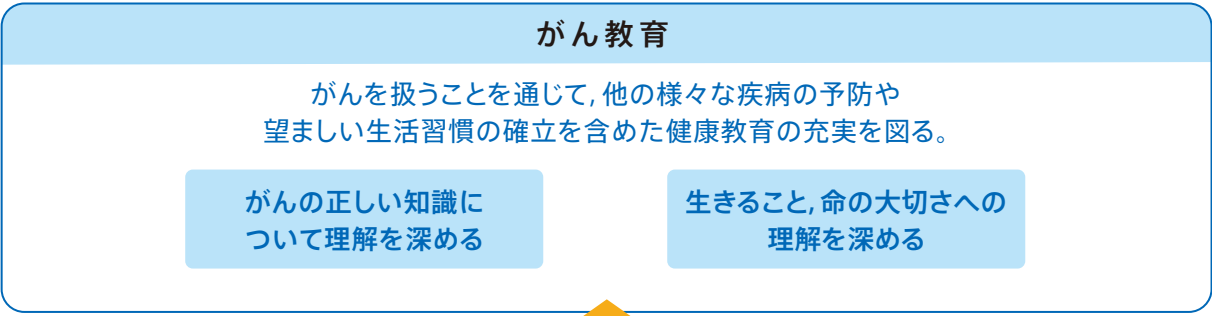
命についての授業になりますので、児童の家庭状況や心理面の配慮が必要です。

本教材P.10の留意事項を、必ず御確認ください。

日本人の死因の第1位はがんです。三割近くの人ががんで亡くなっています。
 そして、日本人の二人に一人は、一生のうちに何らかのがんになると推計されています。
 がんは、命にかかわる病気ですが、現在では、早期に発見し、適切に治療をすれば、治らない病気ではなくなってきました。日本の未来を担う子供たちに、がんの正しい知識や、生きること、命の大切さを理解してほしいと願っています。

プログラムのねらいと特長

がんをテーマとして教育で扱う際に大切なことは、「生きている限り誰にでも起こりうる病気や死といかに向き合うか」という正解が一つではない問を通して、「自分らしい生き方」や「健康と命の大切さ」について考えることです。
 本プログラムでは、がんについて基本的なことを理解するとともに、児童が主体的に考え、行動する力を育成することを目的とし、三つの視点からのアプローチ手法を組み込みました。



提供教材

補助教材



本教材
 ※ねらい・授業進行方法などを紹介しています。

映像教材

映像教材①
 「がん博士の『がんについての基礎知識』」
 がんについての知識を伝える。



映像教材②
 「がんと生きる」
 がん患者の思いや考えを伝える。
 ※二名のエピソードのうち、どちらか選択してご使用ください。

ワークシート



ポスター枠(縦書き, 横書き)

小学校版プログラムの概要

対象 / 関連教科 小学校高学年～／特別活動・道徳

時間 基本授業(45分)
発展授業(45分～)

- ねらい
- ・がんについての正しい知識「予防できること」「早期発見によって治癒する可能性が高いこと」を理解する。
 - ・がん患者による「がんを経験したことによる『生きる』ことへの思い」や、「がんと向き合いながら生き生きとした日常生活を送る」ことを中心とした「健康と命の大切さ」について考える。

※医療従事者やがん経験者の協力によりインタビュー・講話が可能な場合は、映像教材によらず直接話を聞く場面を位置付けることによって、学習がより深まります。

プログラムの構成

基本授業 がんを知る レクチャー編(45分)

導入
(7分)

- 教員
- ・がんについてどのような病気だと思っているかを問い、がんについてどのようなイメージをもっているのか確認する。
 - ・授業のねらいを伝える。

がんについて正しく学び、自分や大切な人のために自分ができることを考えよう。

展開①
(15分)

- 教員
- ・がんについて正しい知識を得ることの重要性を喚起する。
 - ・がんについての知識を伝える。



映像教材①「がん博士の『がんについての基礎知識』」
がんについての知識、特に「健康的な生活習慣による『予防』と、「定期検診による『早期発見』」の重要性を伝える。

医療従事者

※学校医、がん専門医、看護師、薬剤師など、医療従事者による講座を位置付けることで、より深い学びが可能です。

展開②
(20分)

- 教員
- ・がん患者の経験を伝える。



映像教材②「がんと生きる」
がんをどのように受け止め、乗り越えたのか。生き生きとした生活を送る現在の姿には、どのような考えがあるのかを伝える。

がん経験者

※実際のがん患者を招いてのインタビューや講話を位置付けることでより深い学びが可能です。

まとめ
(3分)

- 教員
- ・授業を振り返り、これからの生活につなげる。

発展授業 大切な人のために自分ができることを考える ワーク編

周りの人にどう伝えるかなどの考える活動を通して、学びを主体的・対話的に振り返り、より深い学びにつなげていくことをねらいにしています。基本授業との続きで実施されることを推奨します。

展開

- 教員
- ・基本授業の学びを振り返る。
 - ・学んだことをさらに深めるために、以下のワークを行う。

大切な人の命のために、がんについて伝える資料をまとめよう。

- ・つくった資料を、グループや全体で発表させ、考えを共有する。
- ・基本授業から連続した児童の考えの変容を評価し、「健康と命の大切さ」を伝える。

外部講師を活用したがん教育の進め方

がん教育の実施に当たり、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深めるためには、がんの専門家(外部講師)との連携が効果的です。

「外部講師を活用したがん教育ガイドライン」を参照の上、学校の実情に合ったがん教育を推進してください。

外部講師を活用したがん教育については、本誌に一部抜粋して紹介していますが、詳しくは文部科学省「外部講師を活用したがん教育ガイドライン」をご参照ください。

外部講師を活用したがん教育ガイドライン

検索 

基本方針

地域や学校の実情に応じて、学校医、がん専門医、がん患者、がん経験者など、それぞれの専門性が生かせるよう指導の工夫を行い、教員と連携を密に図りながら実施する。

●実施の手順(例)

	学校内	外部講師との調整
①企画	<ul style="list-style-type: none"> 保健主事、学級担任等を中心に核となる教員を決め、関係教職員と連携しつつ、外部講師を活用したがん教育を企画する。 <ul style="list-style-type: none"> どんなテーマで いつ だれを講師に 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を活用したがん教育の企画に合わせて、関係機関に講師の派遣を依頼する。 <ul style="list-style-type: none"> 事前打診 正式依頼状送付 打合せ日程調整
②打合せ	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を活用したがん教育の実施に向けて、教職員の共通理解を図り、実施内容等について話し合う。また、教科書やがん教育に関わるビデオ、パンフレットなどの資料を準備し、外部講師を活用したがん教育の講師予定者との打合せに備える。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を活用したがん教育の講師予定者と当日の指導内容や指導方法について打合せを行う。 <ul style="list-style-type: none"> 詳細な日程 講師と学校の役割分担 準備品等 指導上の留意事項の確認
③準備・事前指導	<ul style="list-style-type: none"> 当日児童に配布する資料や使用する視聴覚機材を準備する。 必要な場合には事前学習・事前指導等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料や視聴覚機材についての最終確認を行う。 講師と教員との役割分担についても確認する。
④外部講師を活用したがん教育	<ul style="list-style-type: none"> ねらいの説明、講師の紹介を行う。 がん教育を実施する。 	[がん教育を実施する]
⑤事後指導	<ul style="list-style-type: none"> 関連教科と結びつけた指導を行う。 児童からの質問、感想を集約、分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> 講師に感想を尋ねる。 児童の疑問点、意見、感想を伝え、回答を得るとともに、指導上の課題、実施後の指導について話し合う。
⑥評価まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 成果と課題について担当者で話し合い、教職員で共有するとともに、次年度に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 成果と課題について情報共有し、礼状を添える。

●実施のポイント

- ① 学校が主体となって企画・運営を行う。
- ② 核となる教員や授業を担当する教員だけでなく、全ての教職員の共通理解のもとに進める。
- ③ 学校での取組内容を保護者や関係機関などに周知・共有することにより、連携体制を構築する。
- ④ 年度当初の職員会議等で、「学校保健計画」に基づき外部講師を活用したがん教育の開催予定を周知するなど、情報を共有する。

実施上の留意点

●外部講師の選定

- 健康と命の大切さをねらいとした場合
医療従事者だけでなく、がん患者やがん経験者による指導も効果的である。
- がんに関する科学的根拠に基づいた理解をねらいとした場合
学校医、がん専門医(がん診療連携拠点病院等の活用を考慮)など、医療従事者による指導が効果的である。


●運営上の留意点

- 本教材を活用した授業に当たっての留意事項(P.10参照)を講師と事前に共有する。
- 授業計画の作成に当たっては、授業を企画する教員が主体となるよう留意する。
- がん患者・経験者の体験談は貴重であるが、家族に経験者がいる場合などには、強い印象を与える可能性があることに留意する。
- 教員と外部講師は、事前・事後に打合せを行い、授業のねらいを共通理解することが重要である。
- 外部講師を活用して実施する指導を日常の教育活動と関連付ける。

依頼を受けた外部講師の方へ

●内容と指導のポイント

- 講師が伝えたい内容で一方的に授業を構成したり、難解な言葉や専門用語を用いたりすることを避け、興味・関心や理解力など、児童の発達段階を十分考慮して、わかりやすい言葉づかいや内容となるよう工夫しましょう。
- 具体的な事例を用いたり、話し合う場面を設けるなど学習活動を工夫したりすると、学習効果が高まります。
- 怖さを強調するのではなく、がん教育を通じて「自他の健康と命の大切さを主体的に考えることが充実した人生につながる」という積極的なメッセージを伝えることが望まれます。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
<p>展開 ② 20分</p>	<p>3.がん患者の思いを理解する。</p> <p>1)がん患者の経験を伝える。 ワークシート 3</p> <p>①がん患者の経験から学ぶために映像教材を視聴する。 また、映像教材を視聴しながら、心に残ったことをワークシートに記入する。</p> <p>②映像教材を視聴する がん患者との連携でより深い学びが可能です。</p> <p> 映像教材②「がんと生きる」(約5分)</p> <p>※二名のエピソードのうち、どちらかを選択して視聴する。</p> <p>③ワークシートに記入した内容を、グループで共有する。</p> <p>④何人かの児童に発表させ、全体で共有する。</p> <p>⑤がんを乗り越える強さ、また、生きることについて大切なことに気付く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>例) がんを受け止め、それを乗り越えていく強さ、生き生きとしている様子が感じられたね。また、自分のためだけでなく、支えてくれた家族、他のがん患者のために、力を尽くしているという今の生き方からは、「命を大切する」ということを学ぶことができるね。最後のメッセージ、「自分の人生、自分の体を大切に。」という言葉、しっかりと受け止めていこう。</p> </div> <p style="color:red">※展開②のあとに「発展授業」の内容を組み合わせると学びが生かして効果的です。</p>	<p>展開②の映像教材の部分は、実際のがん患者を招いての講話やインタビューにすると、より効果的に学びを深めることができます。</p> <p>●映像教材②の内容は、P.8を参照してください。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px; color:red"> <p>※「どうしてがんになったのか」というような原因探しや、「もう死んでしまうの?」「怖い」という感情を起させるのではなく、「命を大切に」「生き生きと前向きに生きる」姿を伝えるようにする。</p> </div>
<p>まとめ 3分</p>	<p>4.学びを振り返り、これからの生活につなげる。</p> <p>1)授業を通じた児童の変容を評価し、健康と命の大切さを伝える。</p> <p>①教員からのメッセージを語る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>例) 命に関わる病気、がんについて学び、自分や大切な人が生きるということについて、考えたね。がんには負けない体、健康な体をつくるのが大事だね。そして、命は、何よりも大切なこと。自分と、そして全ての命を、大切にしてほしい。</p> </div> <p>2)これからの生活につなげる。(宿題) ワークシート 5</p> <p>①これからの生活で大切にしていきたいと考えること、お家の人に伝えることを宿題で、ワークシートに記入してくるように伝える。</p>	<p>ワークシートには、宿題として、プログラムの学びをお家の人に伝えるワークを用意しました。児童が自分と大切な人の命について考えを深めたことが、多くの立場から価値付けられることをねらっています。児童の家庭環境に配慮しながら、御活用ください。</p>

大切な人のために自分ができることを考えよう! 【1時限(45分)~】

周りの人に伝える内容を考える活動を通して、学びを主体的・対話的に振り返り、より深い学びにつなげていくことをねらいにしています。基本授業との続きで実施されることを推奨します。

1)基本授業での学びを振り返る。

- ①学習前のがんに対するイメージと、今の自分の考えとを比較する。
- ②学んだ知識から、予防や早期発見と治療ができること、もし罹患しても生き生きと生きていくことが大切であることを確認し、正しい知識・情報の重要性と必要性を理解する。

2)理解した知識をさらに深める。

- ①ワークの概要を知る。

ワークシート 4・別紙

Q ワーク 大切な人の命のために、がんについて伝える資料をつくろう。

これまでに学んだ情報を使って、がんについて伝える資料を作成する。

※資料は、ポスターや標語、作文、レポートなど学習の目的に応じて決定ください。

(ポスターを作成される場合、ポスター枠を御利用ください)

- ②作成した資料を、グループで共有し、何人かの児童に発表させ、全体で共有する。
- ③作成した資料を持ち帰り、学習したことをお家の人や、大切な人に話をする。

3)これからの生活につなげる。(※基本授業「まとめ」参照)

- ①これからの生活で大切にしていきたいと考えることを、ワークシートに記入する。

●学習前のイメージとの比較

・がんについて学習する前は、「怖い」「治らない」というようなイメージが多かったことが予想される。しかし、正しい知識を得れば、必ずしも悲観的になる必要はないこと、自分にできることがあることを確認し、学習につなげる。

※児童にとって大切な人が、喫煙や適度の飲酒をしている場合でも、「悪い再活習慣をしている人を攻撃」するのではなく、「良い生活習慣を勧める」ようアドバイスをする。


参考資料【映像教材】

映像教材①「がん博士の『がんについての基礎知識』」(6分35秒)


	<p>質問① どうしてがんになるの？</p> <p>「どうしてがんになるのか」について、説明しよう。私たちの体は、たくさんの細胞でできている。この細胞は、同じものをコピーしながら新しくなっていくんだけど、まれに、別の細胞ができてしまう。それが、がん細胞になることがあるんだ。がん細胞は、どんどん増えていく。そうすると、正しい細胞が正しく動かなくなってしまう。その病気のことをがんと言うんだ。私たちの体はたくさんの細胞からできているのだから、がんという病気は誰もができる可能性がある病気なんだよ。</p>
	<p>質問② がんにならないためには、どうすればいいの？</p> <p>原因の一つには、たばこ。そして、お酒の飲みすぎ。さらに、生活習慣の乱れ。お肉を多く食べて、野菜はあまり食べなかったり、塩分を取りすぎたりしてしまうなど。また、運動不足や食べ過ぎによる太りすぎ、反対に、やせすぎもよくない。がんになる可能性が高くなってしまいます。がんの原因をつくらない予防のためにも、健康によい生活習慣を送ることが大切だ。</p>
	<p>質問③ がんは、なおすことができるの？</p> <p>がんがまだ小さいうちに治療すれば、ほとんどの人のがんを治すことができるようになったんだ。だから、小さいうちに、がんを見付けることが大切。でも困ったことに、がんが小さいうちは自覚症状がなくて、自分自身では気づきにくい。気付いたときにはすでにがんが大きくなってしまっていることが多いんだ。だから、「早期発見」と言って、できるだけ小さいうちに早く見付けることが大切なんだよ！</p>
	<p>質問④ どうすればがんを早く見付けられるの？</p> <p>がんかどうかを調べるのは、まず、何の症状がなくてもお医者さんに定期的に診てもらって、「がん検診」が必要なんだ。検診では、肺や胃など、体のそれぞれの場所に応じた検査をして、自分では気付かない小さな異常を見付けることができるんだ。がんは、早く見付けられれば、ほとんどが治る可能性の高い病気。対策には、まず予防。健康によい生活習慣。そして、もう一つが、早期発見のためのがん検診。この二つをよく覚えておいて、実行してほしい。そしてみんなの大切な家族にも、伝えてほしい。元気に毎日を過ごすためには、健康が大切。健康のためにできることを今から始めよう。</p>

映像教材②「がんと生きる」

長谷川一男さんのエピソード (5分24秒)

	<p>がんとわかったときは、もう頭が真っ白ですね。当時、小学校2年生の息子と幼稚園年長の娘がいたので、子供にどう伝えればいいのか…。4日間一睡もしなかったのを覚えています。</p> <p>自分が治療に向き合うきっかけとなったのは、一人のお医者さんの「可能性はゼロじゃない。ゼロでないんだったら戦うべきじゃないか。」という言葉。それから、子供たち、妻のためにも、納得いくまで先生と話し合っって治療法を決め、治療を進めていきました。</p> <p>私が今、一番大切にしているのは、私が経験したことを、がんを患う人たちに共有していくことです。みんなで話し合う場をつくって、病気に関する勉強会を開いています。そこに、先生を呼んで、相談しながら正しい情報を受け取り、情報発信をしています。みんなで励まし合う場をつくっているのです。</p> <p>みなさんには、「病気になっても自分の人生なので後悔しないように生きる。」ということを強く伝えたいです。自分の人生を大切に、後悔しない、そういう生き方をしてほしいと思っています。</p>
---	--

倉本久恵さんのエピソード (5分03秒)

	<p>がんとわかったのは検診でした。とてもショックで、残してしまう家族への心配が一番大きかったです。でも、毎日のお見舞いに来てくれた家族の支えと励まして、治療をがんばることができました。</p> <p>今はパン屋で仕事をしています。毎日朝はすごく早いし、パン屋の仕事はすごく力を使う肉体労働ですが、やっぱり自分がやりたかった仕事に就けて本当に良かったと、毎日充実しています。</p> <p>今、大切にしていることは、家族のためにバランスのよい食事を作って、家族が健康であるように努めることです。今まで心配をかけた分、家族には健康でいてほしいと考えています。毎日家族と一緒に笑っている時がとっても幸せです。</p> <p>健康であれば自分の夢もかないます。バランスのいい食事をとって、規則正しい生活をして、毎日過ごしてください。そして、家族を大切にしたいと思います。</p>
---	--

使用教材

●ワークシート

がんを学ぼう! あなたと大切な人の命のために

年 月 日
名 姓

1 「がん」とは、どのような病気だろう?

友達にどんなことから聞いたかな? 色を覚えて確認してね。

2 「がん」について、正しく学ぼう。

がんは、癌にかかると聞きますけど、正しい知識がなくて、しっかり対応すれば、治せる病気なんだよ。がんについて、よく聞かせる4つの情報に、わたくしが答えるよ。いっしょに勉強していこう!

説明を読み、キーワードに当てはまる言葉を書こう。また、メモには、わかったこと、大切だと感じたことを書こう。

質問① どうしてがんになるの?	質問② がんにならないためには、どうすればいいの?
キーワード 健康によい メモ	キーワード 習慣が大切! メモ
質問③ がんは、なおすことができるの?	質問④ どうすればがんを早く見つけられるの?
キーワード 発見が大切! メモ	キーワード には健康によい生活習慣 早期発見には 検診が大切! メモ

友達にどんなことをメモしたかな? 色を覚えて確認してね。

3 「がん」になった人の話を聞こう。

今、どのような思いで何を大切にしているのだろう。

友達にどんなことから聞いたかな? 色を覚えて確認してね。

4 大切な人の命のために、「がん」について伝える資料をまとめよう。

わたしの説明や、がんになった人の話を参考に、いいものをつくってほしいな!

5 これからの自分の毎日について考えよう。

学んだことをふりかえり、これから、どんなことを大切にしていきたいと考えるか書こう。

伝言 がんについて学んだことを、お家の人に伝えよう。

お家の人といっしょに、毎日の生活をふりかえり、学んだことを説明しよう。

ふいっついでに がんについて学んだことをお家の人に伝えよう。	20歳以上の人は、 ● たばこを吸っている?	お家の人からコメントをもらおう。
喫煙は… ● 男性と女性のバランスは?	● お酒は、一週間にどれくらい飲む?	
● 体重が増えたり減ったりしていない?	● がん検診を定期的に受けている?	
● 胃をかく運動は、一週間に行っている?		

がんには、まだ治療が難しい病気もたくさんあります。すべてのがんが、早期発見が良かったからがんにならなかったわけではありません。

●ポスター枠(縦書き)

がんを学ぼう! あなたと大切な人の命を守るために

年 月 日
名 姓

●ポスター枠(横書き)

がんを学ぼう! あなたと大切な人の命を守るために

年 月 日
名 姓

9

本教材を活用した授業を実施するに当たっての留意事項

● 児童の心理面について

家族や身近な人ががんの治療中であつたり、がんによって亡くなつたりしている児童への心理面の配慮が必要です。

事前調査を行うなどして、実態を把握し、授業内容について事前に話をしておくなど、必要に応じた対応をしてください。

また、がんの原因は解明されていない部分もあり、わかっている原因については対策をとれますが、現在の科学ではがん罹患する可能性をゼロにできないため、がん患者を支える社会の必要性に気付かせるという学習の方向性が重要です。

● 小児がんについて

本プログラムで扱うがんは「成人のがん」であり、「小児がん」について学ぶものではありません。特に、小児がんの治療中あるいは既往歴のある児童がいる場合は、事前に当該児童の保護者にも授業実施に当たって注意すべき点を確認しておくなどの配慮が必要です。

● 生活習慣とがんとの関連性について

規則正しい生活習慣によって、将来がんになるリスクを低くすることができますが、絶対になんにもならないわけではありません。

※がんには、まだ原因が判明していないものもある。全てのがん患者が、生活習慣が悪かったからという誤った印象を与えないよう注意する。

● 喫煙や飲酒について

未成年の喫煙や飲酒は、法律で禁じられていることを説明するだけでなく、がんやその他の病気の予防のためにも、成人になっても喫煙や過度の飲酒を控える気持ちを育てる必要があります。

● がん検診について

がん検診によって早期にがんを発見することができ、治る可能性が高くなります。

体に不調がなくても定期的に検診を受け、体に不調がある場合は、無理や我慢をせず、病院で診てもらうことが大切です。

● 指導する予防法について

本プログラムで紹介するがんの予防については、現状で推奨できる科学的根拠に基づいたものについて示しています。しかし、現在もがんに関する研究は進められており、今後がんに関連する情報が更新されることが予想されます。そのため、常に正しい情報の収集・活用が大切です。

参考資料・webサイト

● 文部科学省「がん教育推進のための教材」

学校においてがん教育を実施するに当たり、効果的な指導が行えるような補助教材です。

http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1369992.htm

● 「がん教育プログラム(中学校・高等学校版 補助教材)」

上述した「がん教育推進のための教材」に対応したスライド教材です。
全9モジュール分のスライド教材が用意されています。

	スライド			
1	がんという病気		6	がんの治療で大切なこと
2	日本のがんの現状		7	がん治療の支援
3	がんの発生と進行		8	がん患者の思い
4	がんの予防		9	がん患者と共に生きる社会
5	検診の意味			

● 文部科学省「外部講師を活用したがん教育ガイドライン」

学校において、医師等の外部講師ががん教育を実施するに当たり、最低限留意すべき事項等を示すガイドラインです。

http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1369991.htm

● 国立がん研究センターがん対策情報センター「がん情報サービス」

<http://ganjoho.jp/>

本プログラム作成に当たっては、作成委員会を設置し、アドバイス及び監修をいただきました。
また、本プログラム改訂に伴い、検討委員会を設置し、アドバイス及び監修をいただきました。

作成委員会メンバー一覧（五十音順：平成 29 年 3 月）

植田 誠治氏（聖心女子大学文学部教育学科教授）

塚崎 好起氏（岡山県教育庁保健体育課指導主事）

中川 恵一氏（東京大学医学部附属病院放射線科准教授，緩和ケア診療部長（兼任））

林 和彦氏（東京女子医科大学がんセンター長，化学療法・緩和ケア科教授）

広野 光子氏（がんを明るく前向きに語る・金つなぎの会（自助努力の患者会）代表，ジャーナリスト）

検討委員会メンバー一覧（五十音順：令和 3 年 3 月改訂）

助友 裕子氏（日本女子体育大学体育学部健康スポーツ学科教授）

林 和彦氏（聖マリアンナ医科大学客員教授）

前川 育氏（元NPO法人周南いのちを考える会代表）

丸山 洋生氏（愛知県立瀬戸高等学校校長）

吉野恵美子氏（茨城県教育庁学校教育部保健体育課指導主事）

文部科学省